

平成25年度第2回横浜市子ども・子育て会議放課後部会 会議録	
日 時	平成25年12月26日（木）15時00分～16時00分
開催場所	マツ・ムラホール（横浜市中区住吉町1丁目13）
出席者	相原和行委員、明石要一委員、大野功委員、斎藤有厚委員、橋本ミチ子委員、梁田理恵子委員、上浦孝雄委員、工藤春治委員、森佳代子委員、山手英樹委員
欠席者	なし
開催形態	公開（傍聴者5人）
議 題	<議題> ニーズ調査結果報告について
決定事項等	なし
<p><議事></p> <p>ニーズ調査結果報告について</p> <p>（事務局）資料1「利用ニーズ把握のための調査結果（速報）について」に基づき説明</p> <p>（橋本委員）未就学児のほうですけれども、6ページの3番の間24で、「地域子育て支援拠点」の周知と利用度は高いけれども、いろんな広場の利用がそんなに高くないという結果が出ていますが、これは利用料金のことは調査していないので、そこは利用料金に関係しているのではないかと思うのです。いろんな広場だとお金はかかるけれども、拠点は無料だということがあって、区に1カ所しかないけれども無料のほうに流れているということではないでしょうか。ということは、ここで育った親が小学校に入ってくるということは、その無料の意識のまま入ってくるのではないか、そこが気になるところです。それがプラスに出るかマイナスに出るかわかりませんが、そういう意識が育っていくのかなと思います。お金を払うことに対して返ってくるものをきちんと見たいという親たちがいるのかなという気がします。</p> <p>（明石部会長）6ページに4つありますね。「地域子育て支援拠点」と「親と子のつどいの広場」と「保育所子育てひろば」と「幼稚園はまっこ広場」、この中でどれが有料でどれが無料なのですか。</p> <p>（事務局）4つのうちで有料なのは、「親と子のつどいの広場」だけで、それ以外は無料になります。</p> <p>補足させていただきますと、「地域子育て支援拠点」と「親と子のつどいの広場」は、専用の建物、あるいは商業施設等に入っているものもあります。それに対して、「保育所子育てひろば」と「幼稚園はまっこ広場」は、既存の保育施設や教育施設を活用して、地域開放といえわかりやすいのですが、園庭を使わせていただいたり、あるいは通っていらっしゃるお子さん方と一緒に親子で交流したりしています。このように、4つでも、専用でやっているものと、既存の施設を活用しながらやっているものと、実施方法には違いがあります。</p> <p>（明石部会長）そうしますと、「地域子育て支援拠点」というのは、小学校区単位ですか、それとも幼稚園単位、どのくらいあるのですか。</p> <p>（事務局）現在は各区1カ所で、実施しております。</p> <p>（明石部会長）「親と子のつどいの広場」もですか。</p> <p>（事務局）これは、計画上はもう少し多くとは思っているのですが、現状で言うと市内で40カ所ぐらいございます。</p> <p>（明石部会長）「地域子育て支援拠点」を知っている方が80.2%いますが、これは多いと思います。大きな区に1カ所なのによく知っているなど思ったけれども、相当PRをしているのでしょうか。</p>	

(事務局) 例えばお子さんができて乳幼児健診などで区役所とかに行かれる方が多いわけですが、そういったときを捉えて、「子育て情報がもらえますよ」、あるいは「相談できますよ」とご案内する形で、丁寧にご紹介しています。

(明石部会長) 4ページの間14ですけれども、あなたはこういう場所を利用されていますかというので、「利用している」が62.8%ですね。今回は5年前のデータとの比較は非常に興味深くてよかったので、次は20ある政令都市の比較をしてくれると少しデータが読みやすいかなという感じがします。要するに、この62.8%が多いのか少ないのか、その解釈が必要だと思います。

(事務局) ニーズ調査自体はひな形があり、全国がそれをアレンジしている形でやっているものですから、この項目はあると思いますけれども、やっている時期が違って、横浜は比較的早めだったので、集計が出たら各都市の比較が出ると思いますので、その際にとっています。

(明石部会長) 8ページの6番の間43、今の「子どもを育てている現在の生活に満足していますか」というのは、5年前と比べると「満足している」は10%以上増えているのですよね。次の10ページの間51は、「満足している」が67.6%で、5年前と比べたら差がない。これはどういうことでしょうか。

(事務局) 間43のほうは、未就学のお子さんのいらっしゃる方で、同じ問いを小学生についてしたところ、満足度は67.6%だったということです。

(明石部会長) そうすると、一番力を入れたところが5年間で10%伸びており、一方、小学生に上がっている人は5年前とそれほど変化がない。これは非常に貴重なデータです。未就学児について、満足度が5年間で10%も違うというのは大きいことです。

(事務局) はい。原因その他についてはまだ精査できていないのですけれども、いろいろな要因で満足度が上がっているのかなと思います。

(明石部会長) それから、9ページの間11がありますね。横浜は放課後の先端を行っていて、トータルで利用者が6割、残りの4割は利用していないのですよね。これも政令市の比較をしていただけると、横浜は頑張っているのだというのが出てくるとうれしい。こういう調査というのはなかなか5年に1回しかできませんから貴重なデータとして押さえないのですが、この放課後事業の利用は、5年前のデータはないのですよね。

(事務局) はい。

(橋本委員) この利用者の58.3%というのも大事かもしれませんが、「いずれも利用していない」が41.6%あって、そのうちの「子どもが行きたがらないから」が35.3%ということのほうは私は気になります。多分これは内容にかかわるのだと思いますが。

(明石部会長) ほぼ15%の子どもが行っていないと言っているのですよね。利用していないお子さんのうちの15%は何か不満を持っているというふうに解釈したほうがいいでしょうね。それはやっぱり大きな数です。

(上浦委員) その「行きたがらない」という中で、これについての年齢的な、学年的な分析はまだ出ていないのですよね。

(明石部会長) 低・中・高で分けて、特に5・6年でふえているのはわかるけれども、問題は1・2年生で多いということは、やっぱり内容にかかわることもあると思います。

(上浦委員) まだここでは言えないと思うのですが。

(明石部会長) それから、11ページの間27がありますよね。これも個人的には非常に貴重なデータだと思っています。というのは、まだ学校に上がっていないお子さんを持ったお父さんお母さんたちが、放課後の社会で何を期待するかというと、先ほど事務局の説明がありましたように、「習い事」と「放課後事業」が拮抗して

いるというのが、非常に今の親たちの状況をうまくあらわしているなどと思って。希望する場合は18時、19時が多いですね。

(橋本委員) この18時、19時までというのは、多分働いているということでしょうね。ということは、この人たちの分の学童保育なり預りをきちんとつくらなければいけないということですよ。

(事務局) 資料2「ニーズ調査 クロス集計結果」に基づき説明

(明石部会長) このデータを見て、父親が回答したところと母親が回答したところで差が出ませんよね。この父親というのはシングルファーザーに限っていませんね。今までこういう調査は少なかったので、これは非常に貴重なデータです。

(事務局) 今日の資料では出ていませんけれども、シングルファーザーかそうでないかは、クロス分析すれば出すことは可能です。

(明石部会長) 次にこの、近所に相談相手が多いほど生活の満足度が高いというのは、行政としては非常に貴重なデータですよ。つまり、そういうたくさんネットワークをつくってあげないといけないし、相談する方は1人よりも4人のほうが生活がいいと言っているのだから、まちづくりということとネットワークづくりをしないといけないということが、今回のデータからうかがえるという感じがしました。

22ページはすこし変わったデータがありまして、現在の生活の満足度(世帯の収入別)。やっぱり200万円を切ると5割以下なのです。これだけ経済格差の社会になってきたのだと感じます。500万円以上もらえると7割が満足している。500万円から700万円の方ですね。この対象の平均年齢は37~38歳ですか。

(事務局) 未就学児では、母親は30から35歳の回答者が一番多く、34.8%で、父親は35歳から40歳の回答者が一番多く、31.3%です。

(明石部会長) この世帯収入別のクロスをとっていますよね。どのように分類しましたか。この分け方だと7つカテゴリーがありますよね。この7つのデータが欲しいのだけれども、一番いいのは、200万円以下が1,270人いるので、これだけでも欲しいのです。要するに、200万円以下の方がキッズとはまっ子に何を期待するかとか、1,000万円以上の方が4,283人いるので、その人たちがキッズとはまっ子に何を期待するか等。それぞれの層が何を期待するか。19時まで希望するのは収入の少ない方に多いのか。とにかくこの収入が一番決め手になると考えています。当然共働き、専業主婦、シングルファーザーとか、これも母親だけ働く人は143人だから極端に減りますけれども、とにかくこの2つは非常に貴重なキーワードの属性になりますから、放課後の施策に対する意見は聞きたいですね。

(事務局) どんなサービスが必要か等、施策を考える上で階層別の分析もしたほうがいいと思います。

(明石部会長) 安全安心なのか、プログラムが欲しいのか、とにかく預かってほしいのか、いろいろな期待があると思うのです。

皆さん、先ほど申しあげましたように、クロスの場合はゆっくり読む時間がなかったので、なかなか意見が出ないかと思っています。それから、これはまだ中間報告です。これから最終報告がまとまりますので、こういうクロスが欲しい等のご要望がありましたらお願いしたいと思います。

(上浦委員) 先ほどもちょっとお話しましたように、放課後の事業に行きたくないというのが、低学年と高学年によって変化があるのかなのか、全体的にそうなのか、それによって今後の対応にも影響してくるのではないかと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

(明石部会長) ほかにご意見がなければ、この辺で本日の部会を終わりたいと思いますが、よろしいでしょう

か。どうもありがとうございました。	
資料	横浜市子ども・子育て会議放課後部会 委員名簿 横浜市子ども・子育て会議 事務局名簿 資料1 利用ニーズ把握のための調査結果（速報）について 資料2 ニーズ調査 クロス集計結果
特記事項	次回の放課後部会は1月下旬から2月ごろに開催予定です。 日時・場所は、今後調整させていただきます。 本日の議事録は、各委員に確認していただいた後、ホームページで公開する予定です。